

巻頭言

同窓会と大学の「きずな」

勝田 啓示

4

特集 1

4つの学長プロジェクト

— アカウンタブルな社会・経済への大学の貢献 —

原科 幸彦

5

CSR研究と普及啓発 — CSR新時代に向けて —

橋本 隆子

9

快挙、「全国大学対抗簿記大会」
史上初の4連覇達成！

樹岡 源一郎

15

特集 2

千葉商科大学創立90周年に向けて(第4回)

千葉商科大学に学び、得たもの

勝田 啓示

23

特集 3

これまでを振り返って

高橋 桂治

29

活躍する卒業生

本部からの報告

広報・IT委員会

32

定期総会のご案内

各委員会・プロジェクトからの報告(直近委員会より)

32

大学・同窓会本部・支部との連携

支部長会からの報告

33

「同窓会本部さくら会」設立総会開催

支部からの報告

33

同期会からの報告

OB会からの報告

34

同窓生寄稿

「ぶらり旅」

35

第12回商大千葉会泊親睦ゴルフ大会

卒業生のお宿・お店紹介「竹岡商店」

35

庭園散歩

お遍路さんの話

36

CUC経営者会議第3回総会を開催

CUC経営者会議会長再任に際して

36

CUC経営者会議

石井 一男

59

随筆

加藤 由弥

56

鈴木 孝男

鈴木 孝男

57

竹岡 和哉

竹岡 和哉

55

池田 正司

石川 紀康

54

石川 紀康

竹岡 和哉

53

池田 正司

鈴木 孝男

53

鈴木 孝男

鈴木 孝男

50

鈴木 孝男

鈴木 孝男

44

鈴木 孝男

鈴木 孝男

34

鈴木 孝男

鈴木 孝男

33

鈴木 孝男

鈴木 孝男

33

鈴木 孝男

鈴木 孝男

32

鈴木 孝男

鈴木 孝男

32

鈴木 孝男

鈴木 孝男

29

鈴木 孝男

鈴木 孝男

15

鈴木 孝男

鈴木 孝男

9

鈴木 孝男

鈴木 孝男

5

鈴木 孝男

鈴木 孝男

4

教育後援会活動

第3代会長就任にあたって
教育後援会役員会報告

佐久間 聖

63

CUC保護者会(郡山会場)を開催しました

チャレンジ応援奨学金給付学生の報告

平成29年度(春学期)チャレンジ応援奨学金採択者決定
保護者寄稿

「やってみる」をみてみたら

山内 剛

69

CUCの教育

カフェに求められるサービスを考え、実践する コミュニティカフェ・プロジェクト

— サービス創造学部

大塚 茂晃

73

ゼミ紹介

人生の安心を得るために

■ ニュース・イベント

「The University DINING」が、

日本不動産学会の2016年度(第23回)業績賞を受賞!

瑞穂会が全国大学対抗簿記大会史上初の4連覇! トップ5も独占!

商経学部4年関貴之さんが

アブダビ・ワールド・プロフェッショナル柔術選手権大会に出場

外川拓商経学部准教授が日本商業学会優秀論文賞を受賞

■ メディアで紹介されたCUCの報道一覧

■ 国際センターニュース

■ 多様な海外体験に手が届く千葉商科大学

■ キャリア支援センターニュース

■ 本学初!逆オファー型学内合同会社説明会の成果と今後に向けて

■ 地域連携推進センターニュース

■ 地域貢献活動

■ 生涯学習、社会人教育支援事業について

■ 小学生対象事業(CUCキッズ大学)

■ 「SA」としての「プロジェクト演習」

石井 友紀乃

74

■ 冊子紹介

■ 文化団体・体育会所属各部の活動状況

川瀬 功

75

同窓会と大学の「きずな」

勝田 啓示

● 千葉商科大学同窓会会長
(昭34商)



今年も容赦なく照りつける太陽の顔をほとんど見ないうちに8月が終わり、思えば短い夏であった。

大学は秋学期の真只中、学生は勉学に部活に励む絶好の季節、そんな中、同窓会は第48期定期総会を迎える。

第47期は多くの人に参加していただき、交流を深め、人脈をつくり、活動を通してそれぞれが自己実現を図り、より一層の基盤強化を重点目標に掲げ進めてきた。

九州にはじめて支部が設立され、千葉県を中心に女性の会が発足し、昭和50年代卒の同期会がまた一つ生まれ、平成年代卒の若手交流会もはじまり、「きずな」の輪が大きく広がった。

支部定期総会にも画期的な変化があった。従来、支部定期総会は主として首都圏内の支部に理事長の原田先生、理事の瀧上先生、太田商経学部長、吉田前サービス創造学部長、今井サービス創造学部長にご臨席をいただいで

いたが、更に加えて今年度から各支部定期総会に大学から原科学長、内田常務理事、露崎法人事務局長、東条大学事務局長、東海林法人事務局次長の諸先生にも分担してご臨席いただくことになり、各支部共により一層格式高い定期総会になった。

支部会員のみで開催していた支部にとっては大学の情報を直接知ることができ、交流も深まり、大学との距離が近くなったと大歓迎で、ここでも「きずな」が深まった。同窓会・大学共に発展・充実していくには「きずな」が重要な要素となる。そんな意味ではその基礎が固まりつつあるのではないだろうか。同窓会の究極の目的は母校に貢献することである。大学は来年90周年を迎え、社会科学系の実学総合大学として躍進を続けている。オール千葉商大の固い「きずな」で祝いたいものである。

これまでを振り返って

高橋 桂治

小松川信用金庫 理事長
昭和52年 商経学部経済学科卒業



私の生まれは山形県高島町で「まほろばの里」と呼ばれています。

実家は戦前、中規模な庄屋でしたが農地解放と病気のちの父親並びに家族に病人がいた関係で、決して裕福ではなく、勉強も好きとは言えませんでしたので、当初は大学に行くつもりはありませんでした。

この頃は就職難の時代で、希望する企業は募集しておらず、それなら大学へと意を決し、入学金を親と兄に依

頼して「奨学金とアルバイトで学費と生活費を賄う」と親を説得し、本学に入学しました。

このような状況から大学の寮に入るようになりましたが、当時は手児奈寮と江戸川寮があり、私は江戸川寮に入寮することになりました。詳しいことは差し控えますが、昔の漫画に『花の応援団』というのがあり、殆んど同じような状態でした。私はこのたった一年間の寮生活が、今までの人生の中で一番強烈に印象に残っています。

そして、入学後にはオイルショックが発生し、本学に止まらず、何処に行ってもトイレットペーパーがない時代背景でした。

昭和51年のロッキード事件が発覚した年に就職活動をしていましたが、未だ

就職難の時代が続いていました。そんな中、遠い親戚が小松川信用金庫と取引をしていた関係で、試験を受けたところ、内定が出ました。

現在のように内定を何社から頂いた後に選択する時代ではありませんでしたので、当時は何の躊躇もなく、金融機関は決して潰れないからと安心して入庫することにしました。

私が入庫した当時は東京都内にまだ58の信用金庫があり、金融機関は何処も積極的に新規出店をして



江戸川寮より江戸川を臨む



まほろば古の里歴史公園(山形県東置賜郡高島町)

いました。特にバブル絶頂時は融資窓口にお客様が並ぶ程で、帰宅時に子供が起きていることは殆んどないほど多忙な毎日でした。また、当金庫の方針と私の考え方として、取引先から感謝してもらえようような融資やコンサルティング機能を発揮し、取引先を支援することについては一致していました。

従って、他金融機関は急速に拡大しているものの、当金庫は緩やかな伸びで、それが幸か不幸か不良債権処理が出来る範囲内でしたので、合併の道を選ぶことなく単



小松川信用金庫本店

ここで負けては以前の関係者にも迷惑をかけることになると思います、融資申し込みから回収まで必死で覚えました。その結果、39歳の時に市川南支店の支店長に抜擢され、夢中で仕事に励みました。地域に根ざす信用金庫業務

独で今日に至っています。なお、東京都内の信用金庫は現在23信用金庫となり、入庫時の3分の1となっていました。このような中、当金庫は来年の11月に創立百周年を東京都内信用金庫で初めて迎えます。

私が入庫して配属されたのは当時の本部検査課（現在は監査部）です。職員仲間から嫌われる部署で、更に上司が厳しい人であったことが私を天狗にしなかったのかも知れません。6年後に初めて営業店に融資係長として配属されましたが、当初は全く使い物にならない職員だったようです。

の本当の面白味と難しさを改めて知ったのもこの頃でした。

また、支店長等を歴任していた頃にバブルが崩壊し、拓銀等の破綻が勃発して金融機関が大きな嵐に巻き込まれた時期でありました。

その後役員になりましたが、地元の出身でもない田舎の人間がまさか、昨年理事長を拝命するとは夢にも思っておりませんでした。

昨年から日銀がマイナス金利政策を実施しましたが、まさに地域金融機関にとって逆風が吹き荒れ始めた6月に理事長に就任し、ぬるま湯体質を脱却すべく意識改革をしているところですが、悩みは尽きません。当金庫には本学出身の職員もおり、創立百周年事業の成功と、小松川信用金庫の悠久の発展を願い、職を全うすることが本学卒業生としての務めと考え、尽力致したいと思っています。